

学校図書館のための 情報リテラシー

後藤 敏行
日本女子大学

はじめに(本研修の前提)

- 『図書館教育ニュース 付録』(少年写真新聞社)で2019年度に連載をしました※。それをもとにお話しいたします

※日本女子大学の機関リポジトリ(<https://jwu.repo.nii.ac.jp/>)にてすべて公開。

- それを既に熟読した方や、大きく超える内容を期待する方向けの研修ではありません
- 読んでいない方や、同様の話を再確認したい方向けです

主な内容

- 自己紹介（後の議論や質疑応答につながるかもしれないため）
- 情報リテラシーとは
- 学校図書館が関わる際の課題
- 国内の調査研究

自己紹介

- 2000-2002年度：博士前期課程
- 2003-2005年度：東北大学附属図書館
- 2006-2008年度：青森中央短期大学（かつ、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 博士後期課程）
- 2009年度-現在：日本女子大学

学校図書館で受けうる相談

- 修学旅行の事前学習「沖縄について調べる」
何から手をつけたらよい？
- 世界史の調べ学習「市民革命」→新書，一般の単行書，事典など，資料の使い分けや整理の仕方？
- 今度，社会問題をテーマに，皆の前で発表→
どういうデータを使えばよい？

あるいは…

- 母が、なんだか聞いたこともない、難しい病気になってしまった。病気のことを知るには何を調べたり、読んだりすればよい？
- 「この治療法がよい」とか「いや、その治療法はダメだ」とか、書いてあることが本によって違う。どうしたものか？
- 病気のこととは大体分かったが、母も動転している。どう伝えればよい？

情報リテラシーとは

- 簡潔に言えば「何らかの問題に対処するために、多くの情報の中から必要なものを選び出し、読み解き、問題の解決や新たな情報の創造・発信をする能力」
- 言葉をどう定義するかの問題でもあるが、メディアリテラシー(メディアの情報を主体的に読み解き積極的に活用する能力)よりも広い概念

学校図書館が関わる際の課題

- 代表的な審議会答申など※→情報リテラシー（情報活用能力）を定義する際、情報の選択・理解・創造能力だけでなく、コンピュータの操作能力、情報モラルという側面も重視

※連載現物、または日本女子大学の機関リポジトリ(<https://jwu.repo.nii.ac.jp/>)を参照してください。

- 情報の選択・理解・創造能力をどう育むか？
に加えて、中学校の技術・家庭科における、情報に関する単元や、高等学校の教科「情報」との連携をどうするか？、情報モラルの要素をどう取り入れるか？

教科「情報」と学校図書館

- 高等学校の各学科に共通する教科「情報」（「共通教科情報科」）→小中高校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育（情報活用能力を育む教育）の中核に位置づけられる
- 同時に、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編』は次のように、教科等横断的な教育や、学校全体での情報教育を考える際の学校図書館の重要性を指摘

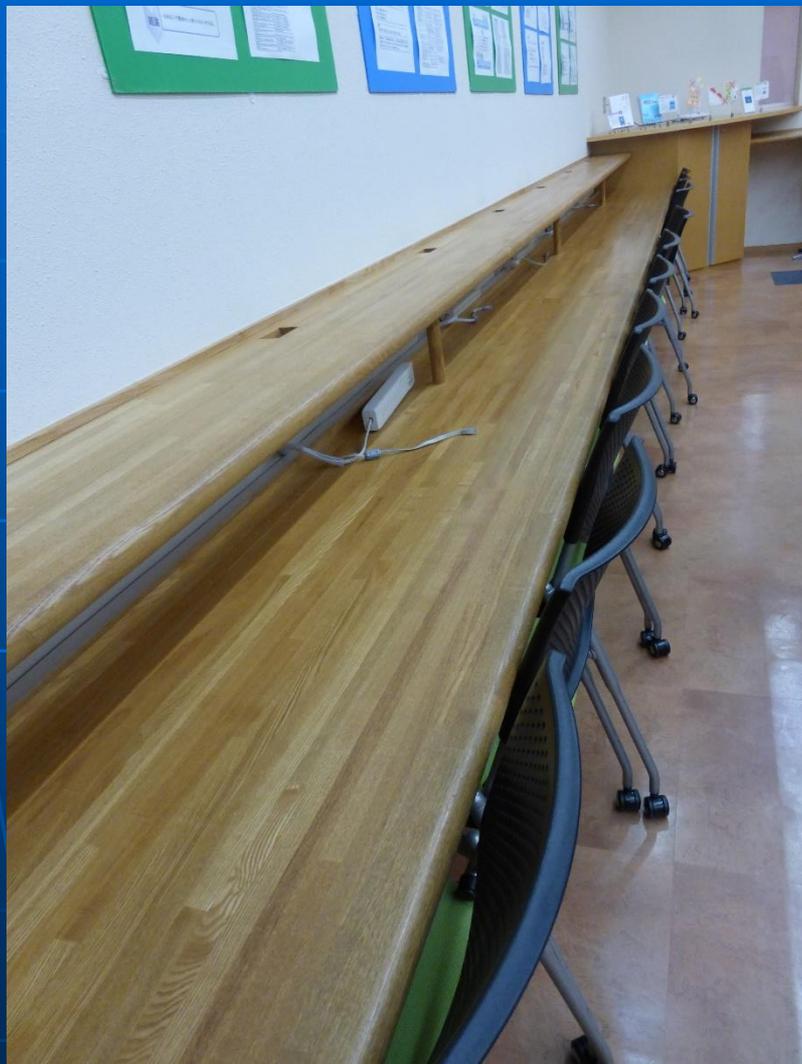
教科「情報」と学校図書館

- ✓「高等学校段階における情報教育を，共通教科情報科だけが担うように極めて限定的に捉えてはならない。(中略)教科等の特質に応じて教科等横断的に情報活用能力を身に付けさせる教育のより一層の充実が求められている」(p. 15)

教科「情報」と学校図書館

- ✓ 「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図ることも大切である。書籍やデジタルメディアなどの情報と情報手段を合わせて利用できるようにした学校図書館を、学習情報センターとして生徒の主体的な学習活動に役立てていけるように整備を図り活用していくことが必要である」(p. 15-16)

参考写真



参考写真



情報モラルと学校図書館

- 学習指導要領は「情報活用能力（情報モラルを含む。）」と、情報モラルを特記

多数の箇所に記載があるが、例えば、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編』p. 4.

- 情報モラルとは、具体的には、「他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危機回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解することなど」

『高等学校学習指導要領 解説 総則編』p. 77.

情報モラルと学校図書館

- 「情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要」

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』p. 86.

→実際、ネット上でのいじめや犯罪、ネット依存、ウイルスやハッキング、相手の顔が見えないメールでのすれ違いなど様々な問題・テーマがある。学校図書館はどう関わるか？

参考写真



参考写真



後藤敏行『学校図書館サービス論：現場からの報告』樹村房，2018，p. 32.

国内の調査研究(1)

- 情報活用能力調査(高等学校):小中学校を対象にした調査(2013-2014年)に続き、2015年12月-2016年3月に行われた全国調査。2年生生徒4,552人を対象
- 共通教科情報科など特定の教科だけでなく、教科横断的な資質・能力である情報活用能力を、高校生がどの程度身につけているかを評価
- 調査結果→文科省のウェブサイト

国内の調査研究(1)

- ✓ 「生徒による教師への敬意が欠けている」と「生徒に対する教師の期待が低いこと」という質問項目が、生徒の情報活用能力と最も強い関係があった＝「敬意は欠けていない」、「期待は低くない」との回答をした学校ほど、生徒の情報活用能力が高かった
- ✓ また、以下の生徒の情報活用能力が高かった

国内の調査研究(1)

- 課題や問題点を解決しようとする際に、「関連付け」、「取捨選択」、「優先順位付け」、「振り返り」といった、メタ認知的方略(メタ認知とは、「自分が考えていることについて考える」ともいえる)をとる生徒
- 「コンピュータやインターネットは、将来の仕事や勉強に役立つ」と回答した生徒や、インターネット上でのルールやマナーへの意識が高い生徒

国内の調査研究(1)

- 上記は相関関係(変数の一方が変化すると、ほかの変数も変化する関係。どちらが原因でどちらが結果かは不明)。因果関係(変数の一方の変化が、ほかの変数の変化を引き起こす、原因と結果の関係)ではない

→教師への敬意を抱くことが能力を高めるのか、それとも、能力の高い生徒が集まった学校では教師への敬意を欠いた行いが少ないのかなどは、分からない

国内の調査研究(1)

→教員と生徒の関係を良好にすること, メタ認知的な学習習慣を身につけさせること, コンピュータやインターネットは将来の仕事や勉強に役立つと動機づけること, インターネット上のルールやマナーへの意識を高めることを, 学校図書館を活用した授業などの場面で, 司書教諭や学校司書も念頭に置くとよい, かもしれない

国内の調査研究(2)

- 以上は、「生徒の情報リテラシーを高めるために、学校図書館スタッフも含め、関係者が念頭に置くとよいかもかもしれないこと」
- 「生徒の情報リテラシーを高めるために、ほかならぬ学校図書館だからこそできること」は？

国内の調査研究(2)(庭井, 2016※)

- 中学校の教師用指導書から、情報の探索と利用に関する指導内容を示す記述を抽出し、図書館利用指導の内容と比較
- 図書館利用指導で取り扱う知識・技能は、①教科でも同じように取り上げられている②一部が教科でも指導されている③教科では取り扱われていない、に分類できた

※庭井史絵「教科による情報活用能力育成と「図書館利用指導」の比較:教師用教科指導書の記述を手がかりとした分析」『教育情報研究』2016, vol. 32, no. 2, p. 13-24.

https://doi.org/10.20694/jjsei.32.2_13, (参照2022-10-16).

国内の調査研究(2)(庭井, 2016)

- ②と③から明らかになったこと:「利用指導が、教科の枠組みを超えて扱っている主な内容は、多様なメディアを利用することや、必要な情報を見つけることなど、情報収集の過程で求められる知識や技能」「現行の教科の枠組みでは、多様な情報源から必要な情報を探したり、それらを必要な形に加工したり、記録したりするために必要な知識や技能が取り上げられにくい」

(前半のスライド再掲)

- 母が、なんだか聞いたこともない、難しい病気になってしまった。病気のことを知るには何を調べたり、読んだりすればよい？
- 「この治療法がよい」とか「いや、その治療法はダメだ」とか、書いてあることが本によって違う。どうしたものか？
- 病気のこととは大体分かったが、母も動転している。どう伝えればよい？

おわりに

- どれだけ理路整然と説明しても、動転しているお母さんの耳には届かないかもしれない
 - 残念なことに、お母さんの病気は完治しないかもしれない
- 情報リテラシーは、かなり有用ではあるが、それさえあれば身に降りかかってくる問題をすべて解決できる、とまではたぶん言えない

おわりに

- さらに言えば、そもそも、情報リテラシーを身につけるのは簡単ではない。「将棋やフィギュアスケートには特別な才能や努力が必要だが、情報リテラシーなら誰でも手軽に習得できる」とも言えない
- が、あれば生徒自身の大きな力になる。学校図書館としても情報リテラシーの学びに貢献したい